

江古田小校長室便り 「温故創新」

H29 (2017)・1207 NO53

校長 伊波喜一

一人では ないことを知り 友達の 有難み知る 大切なもの

1日に行われた「連合音楽会」で5年生が歌った「大切なもの」(山崎朋子詩・曲)は、聞く者の心にストレートに響きました。この詩の意味と意義を、彼らはよくつかみ、歌っていました。 紹介します。

大切なもの

空に光る星を 君と数えた夜 あの日も今日のような風が 吹いていた
あれから いくつもの季節こえて 時を過ごし
それでも あの思いをずっと 忘れることはない
大切なものに 気づかない僕がいた 今 胸の中にある温かい この気持ち
大切なものに 気づかない僕がいた 一人じゃないこと 君が教えてくれた
大切なものを

くじけそうな時は 涙をこらえて あの日歌っていた歌を 思い出す
がんばれ 負けないで 声が聞こえてくる
本当に 強い気持ち 教えてくれた
いつか会えたなら ありがとうって言いたい
遠く離れてる君に がんばる僕がいる
大切なものに 気づかない僕がいた 一人じゃないこと 君が教えてくれた
大切なものを

素敵なお詩ですね。私達は日頃、大切なものに守られて生きています。でも、日々の忙しさに紛れ、本質を見失ってしまいがちです。大切なものの価値に気づくには、往々にして距離と時間が必要な場合があります。距離感を推し測り、時間の経過を待つてあげることで、子どもは自ら、大切なものの価値に気づくのではないのでしょうか。 そのことは、子どもだけでなく、むしろ私達大人の方こそ感じることも知れません。仕事・家庭・子育て・親の介護と、日々の生活に必死に取り組んでいる大人達。立ち止まろうにも、それが許されないぐらい、目まぐるしい日々を送っているのが、現実の姿です。だからこそ、どこかで立ち止まり、忘れかけていた大切なものにふれていきたいのです。